1 PLAN(目的	約•概算	声)	一般事	務事業 建	設整備事業	事務事業 ☑計画 □	の段階]事業化 □ 事績	€ □管理	個12事12	
政策名	3 夢のる		/			23年度事業・	個別施策評価結	果	A	
基本施策名 個別施策名		いと魅力のあ は港湾空間を		る港湾空間の形成 :成する			(今後の取組みの方向性) 事務事業 成果 コスト		企画調整室 環境担当課長	
				·	₩ - 1			油 级失	052-654-7819	
事務事業名 ———————	12 名占	i屋港跳上橋の保存・活用方法の検討			継続 維持 維持		連携課	工事課		
目的	 名古屋港	基跳上橋の歴史資源としての保存・活用方法を作成し ま				ます。		事業期間	平成21~24年度 ※「その他特記事項」	
									次「ての他付記事項」	
low	名古屋港	屋港景観基本計画において歴史資源として位置づけられている(国登録有形文化財、								
概要		代化産業遺産)、名古屋港跳上橋の保存・活用について検討するものです。							□有☑無	
								義務		
24年度の実施予定	 名古屋港	跳上橋の保存・活用のため、実施設計により補修・補強設計及び施工計画の作成						成関連		
24年度の美胞アル	を行います。							シート		
/ /										
2 DO(実施)	1									
24年度に実施した	実施設計	により補修・	補強設計及び	施工計画の位	作成は完了し	ました。				
内容·結果	7,001241	. = 0 . 7 11117		<i>20</i> —7.1—11.	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	0.0.00				
コスト(年度)	単位	20(実績)	21(実績)	22(実績)	23(実績)	24(実績見込)	(款項目節)	備考(款項	[目節等)	
事業費 計	千円		7,455 7,455	0	0	2,989 2,989		貴/環境整備	費/工事請負費	
一般会計事業会計	千円		7,400		0	2,969				
その他	千円						(算出計算式)			
人員費 計	千円		1,201	3,986	4,569	2,876	<u> </u>			
正規職員	人		0.14	0.47	0.53	0.33				
嘱託職員	人		0.00	0.00	0.00	0.00	(その他)			
合計	千円		8,656	3,986	4,569	5,865				
3 CHECK(木	貪証)									
活動・成果 指標保存・活用方法作成	年度	20	21	22	23	24	最終目標 24	備考(指	標の算定方法など)	
	目標 実績		2	2	1	2 2	(累計)6	以下の検討・作成手続きにおける実施工程数を合計します。①現況整理、②健全度調査の実施、③活用計画の作成、④補修・補強方法の検討、⑤補修・補強設計、⑥施工計画の作成		
工程の進捗状況(エ	達成率(単年度%)		100.0	50.0	100.0	100.0				
程)	達成率(累計%)		33.3	50.0	66.7	100.0				
	目標		33.0	67.0	67.0	100	(累計)100			
	日保		აა.0	07.0				仅方, 迁田七	はたけの子はきの宝佐	
保存·活用方法作成	実績		33.0	50.0	67.0	100		工程数を把	5法作成の手続きの実施 握することで事業の進捗	
保存・活用方法作成 工程の進捗率(%)	実績		33.0 100.0	50.0 74.6	67.0 100.0	100.0		工程数を把意を見ます。		
工程の進捗率(%)	実績 建成率(単年度%) 達成率(累計%)	確認	33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0	100.0 100.0		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。	
	実績 ^{達成率(果計%)} •効率性の		33.0 100.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0	100.0 100.0		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かる	実績 ^{達成率(異年度%)} ^{達成率(累計%)} ・効率性の	× •	33.0 100.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0	100.0 100.0		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かる 必要 利用者のニーズは高いか	実績 ^{達成率(単年度%)} ^{達成率(累計%)} ・効率性の	_0 ·×_	33.0 100.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0	100.0 100.0		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かつ 要利用者のニーズは高いか 性 本組合が関与する必要か	実績 ^{達成年(単年度%)} 達成年(累計%) ・効率性の ・効率性の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	0 · × 0 · × 0 · ×	33.0 100.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0	100.0 100.0		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かつ 要利用者のニーズは高いか 本組合が関与する必要が 目的や目標の水準は妥当	実績 ^{達成年(単年度%)} 達成年(累計%) ・効率性の ・効率性の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	_0 ·×_	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0 判断理由(記	100.0 100.0 課題の抽出)		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画の作 成、補修・補強方法	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かで 利用者のニーズは高いか 本組合が関与する必要か 目的や目標の水準は妥当 有効目標を達成したか?	実績 ^{達成年(単年度%)} 達成年(累計%) ・効率性の ・効率性の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	0 · × 0 · × 0 · ×	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0 判断理由(記	100.0 100.0 課題の抽出)		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったのでで、23年 成、補修・補強方法 について取りまとめ、 24年度に事業実施設	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かつ を対しても必要な事業かつ 利用者のニーズは高いか性 本組合が関与する必要が 目的や目標の水準は妥当	実績 ^{達成率(単年度%)} ^{達成率(累計%)} ・効率性の ・効率性の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	O · ×	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0 判断理由(記	100.0 100.0 課題の抽出)		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画の作成、補修・補強方法 について取りまとめ、	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かつ 利用者のニーズは高いかで性 本組合が関与する必要が 目的や目標の水準は妥当 目標を達成したか? 個別施策へ貢献したか?	実績 ^{達成年(単年度%)} ^{達成年(累計%)} ・効率性の ・効率性の ・効率性の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	O · ×	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0 判断理由(記	100.0 100.0 課題の抽出)		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画の作成、補修・補砂まとめ、設 24年度に事業ることと したため、目標年度 を22年度から変。	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かつの 利用者のニーズは高いか 本組合が関与する必要か 目的や目標の水準は妥当 相標を達成したか? 個別施策へ貢献したか? 最小のコストで成果をあげる 数 受益者に適正に負担させ	実績 ^{遠成年(単年度%)} ^{遠成年(果計%)} ・効率性の ? ぶあるか? がか?	O · ×	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0 判断理由(記	100.0 100.0 課題の抽出)		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画強方法 について取りま実と施設 24年度に取事するにとと したため、目標年度	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 必要性・有効性 どうしても必要な事業かつ 利用者のニーズは高いか 本組合が関与する必要か 目的や目標の水準は妥当 同機を達成したか? 個別施策へ貢献したか? 最小のコストで成果をあい	実績 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** *	O · ×	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0 判断理由(記	100.0 100.0 課題の抽出)		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画の作成、補修・補砂まとめ、設 24年度に事業ることと したため、目標年度 を22年度から変。	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かつのでは高いか を担合が関与する必要が を担合が関与する必要が を選成したか? は関別施策へ貢献したか? は関別施策へ貢献したか? を対象のコストで成果をあいる。 を対象のコストで成果をあいる。 を対象のコストで成果をあいる。 を対象のコストで成果をあいる。 を対象のコストでは果をあいる。 を対象のコストでは果然による。 を対象のコストでは果然による。 を対象のコストでは果然による。 を対象のコストでは果然による。 を対象のコストでは、またいる。 を対象のコストでは、また	実績	O · ×	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0 判断理由(記	100.0 100.0 課題の抽出)		工程数を把意を見ます。	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画の作成、補修・補砂まとめ、設 24年度に事業ることと したため、目標年度 を22年度から変。	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かっ 利用者のニーズは高いか 本組合が関与する必要か 目前や目標の水準は妥当 目標を達成したか? 個別施策へ貢献したか? 最小のコストで成果をあい 変益者に適正に負担させ	実績	O · × O · × O · × O · × O · × O · × O · × O · ×	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0 判断理由(記	100.0 100.0 課題の抽出)		工程数を把する工程数を記する工程数を記する	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画の方法 について取りまとめ 24年度に事業ること にたため、目標年度 を22年度から変。	
・	実績	□○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0 判断理由(影	100.0 100.0 課題の抽出)	判断理	工程を見数・予	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画の方法 について取りまとめ 24年度に事業ること にたため、目標年度 を22年度から変。	
工程の進捗率(%) 必要性・有効性 どうしても必要な事業かっ 利用者のニーズは高いか 本組合が関与する必要か 目的や目標の水準は妥当 目標を達成したか? 個別施策へ貢献したか? 機小のコストで成果をあい 効率 受益者に適正に負担させ 効率的な運営主体となっ 4 ACTION(実績	O · ×	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0	67.0 100.0 67.0 判断理由(影	100.0 100.0 課題の抽出)		工程を見数・予	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画の方法 について取りまとめ 24年度に事業ること にたため、目標年度 を22年度から変。	
・	実績	□○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□	33.0 100.0 33.0	50.0 74.6 50.0 艾24 年	67.0 100.0 67.0 判断理由(記 下度 跳上橋の保	100.0 100.0 課題の抽出) そ・ 活用の検	判断理討は完了しま	工程を見数・予	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画の方法 について取りまとめ 24年度に事業ること にたため、目標年度 を22年度から変。	
・	実績	□○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□ □○·×□	33.0 100.0 33.0 成果	50.0 74.6 50.0 艾24 年	67.0 100.0 67.0 判断理由(100.0 100.0 課題の抽出) そ・ 活用の検 降の取り組る	判断理討は完了しま	工程を見数・予	握することで事業の進捗 進捗率は手続きの実施 定工程数で算出します。 その他特記事項 ※予想以上に損傷が 激しかったので、23年 度に活用計画の方法 について取りまとめ 24年度に事業ること にたため、目標年度 を22年度から変。	